

紫香樂宮（天平一四年～一七年）に関連するものと判断することができ
る。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「く上総国山辺郡」

天平十六年十月く 270×34×6 031*

ほぼ完形で出土したが、墨痕がほとんど残らず、かすかに浮き上がった文字痕をもとに釈読した。

木簡の釈読にあたっては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏・吉川聡氏からご教示を得た。

（畑中英二）

紫香樂宮跡調査委員会編 信楽町教育委員会発行

『宮町遺跡出土木簡概報』一

「皇后宮職」「金光明寺」と書かれた木簡や、参河・遠江・駿河・伊豆・近江・越前などの諸国の荷札木簡が出土し、紫香樂宮跡であることが確実になった滋賀県信楽町宮町遺跡出土の木簡の概報が刊行された。今回は宮町遺跡で初めて木簡が出土した一九八六年度の第四次調査から、一九九七年度の第二二次調査出土分までを収録する。既に『木簡研究』などで報告済みの木簡についても、今回再度釈読を行い、最新の成果を収録する。今後も続刊の予定。

A4版 三三頁 写真図版三葉 一九九九年一二月刊行
頒価一〇〇〇円（送料込み）

問い合わせ先

信楽町教育委員会宮町遺跡調査事務所 鈴木良章氏

電話 〇七四八―八三一―一九一九（FAX兼用）